

令和5年度学校評価 計画

学校名		佐賀市立小中一貫校北山校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の柱に「対話的な学び」を位置づけ取り組んだことで、児童生徒が主体的に学ぶ姿に加え、考えを交流したり、更新したりする姿が見られた。さらに、論理的思考の手がかりとしている北山思考スキルを活用する等して児童生徒が探求し続ける姿を目指していく。 ・地域との交流活動や地域の特性を生かした体験活動を通して北山のよさを理解し、ふるさとへの愛や誇りを持つ児童生徒を育成する。それら北山のよさを活かした総合的な学習やキャリア教育を仕組むことで、児童生徒にこれからの時代を生き抜く資質・能力をつけさせるようにする。 ・思いやりを持ち、人との絆を大切にすることの育成を目指し、言葉遣いを引き続き指導強化していく。 ・業務のスリム化、重点化を促進し業務改善を行うことで教育の質の向上を目指す。 		
2 学校教育目標	「感謝・絆・全力」を合言葉に、小中一貫教育と各種交流活動によって、自主・自立に向かう児童生徒の育成をめざす。		
3 本年度の重点目標	①「感謝」— 豊かな心【キーワード： 自他の生命尊重 他人を思いやる心 自己肯定感 キャリア教育】 ②「絆」— 絆づくり【キーワード： 人間関係力の向上 ふるさとへの愛、誇り 地域連携 小中一貫教育】 ③「全力」— 学力向上【キーワード： 基礎・基本(学習・生活習慣)定着 思考力・判断力・表現力向上 体力向上】		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員を90%以上にする。 ○県学習状況調査の各学年、各教科の平均点数が県平均を超える。	・「北山校授業モデル」(つかむ→見通す→考える→深める→まとめる)を徹底し、北山思考スキルを活用した対話活動を通し、主体的に学ぶ授業づくりを全職員で展開し、論理的思考力の高まりを目指す。
	○児童生徒が、課題解決に向けて、対話的な活動を経て、主体的に学びふような授業実践 ○学習用タブレットを効果的に活用した学習の設計 ○家庭学習に関する児童生徒、家庭への啓蒙	○学校評価アンケートで、「全教科等で、課題解決に向けて児童生徒が主体的に学ぶような学習活動を取り入れた授業実践をした」と回答する教職員を80%以上にする。 ○学校評価アンケートで、「わからないことや疑問に思ったことを自分で調べたり、聞いたりして粘り強く解決しようとした」と回答する児童生徒を80%以上にする。 ○学校評価アンケートで、「電子黒板やパソコンを使った学び方は、分かりやすく、便利だと思う」と回答する児童生徒を90%以上にする。	・校内研では、全職員で深い学びにつながる効果的な学習活動を取り入れた授業改善を目指す。また言の葉タイム、読書の充実を通して、児童生徒の読解力、論理的思考力を伸ばす。 ・中学生には、ノルティスコライトを取り入れ、学習内容や時間、方法を含め自分の生活をコントロール(セルフマネジメント)させる。 ・自分の学習について振り返らせたり、家庭学習ががんばろう週間を設定したりして、主体的な家庭学習につなげる。 ・学習用タブレットの活用状況を把握し、必要な研修について計画する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○いじめののちを考える日に、集会活動や学級活動を行う。 ○学校評価アンケートで「自分や周りの人の命を大切に、優しい心で言葉をかけたり、行動したりしている」と回答する児童生徒の割合を90%以上にする。	・道徳の授業を公開することにより、家庭や地域の方々に学校の取組を知ってもらおうと共に、心の教育においても家庭、地域との連携を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで、「友だちがいやがる言葉や言ったり、いやがることはしていない」と回答する児童生徒の割合を90%以上にする。	・月に1回、いじめののちを考える日として、人権集会を行う。 ・いじめアンケートを毎月行い、日常の細かな観察と併せ、早期発見、早期対応を行う。 ・職員の報告連絡相談を円滑にし、「いじめ未解決0」を北山校のスタンダードとする。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒80%以上にする。	・学習や行事を通し、児童生徒が見通しをもって取り組み、自分の変化や成長を実感できる単元を仕組む。 ・キャリアパスポートを活用し、各種体験活動では、児童生徒に自分の生き方・目標を見据えた活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。
	○「あいさつ・返事」「正しい言葉遣い」ができる児童生徒の育成	○「あいさつ、返事、正しい言葉遣い」ができている」と回答した児童生徒・保護者・教職員の割合を90%以上にする。	・「あいさつ、返事、言葉遣い」についての指導を、年度初めに全校集会、学級指導、児童生徒会活動を通して徹底する。また、年間を通して全職員で指導の徹底を図り、集会等の折に中間評価を加える。
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○学校評価アンケートで、「日常の教育活動、教科等の内容、避難訓練を通して安全に関する指導を継続して行っている」と回答する教職員の割合を90%以上にする。	・危機管理マニュアルの内容を4～5月中に全職員で確認する。日頃から事例等を示し、児童生徒にも当事者意識を持たせる。 ・児童生徒に年3回の避難訓練の意義の理解を図り、自分で考えて行動し、安全を確保できる資質能力を育むようにする。 ・児童生徒全員がヘルメットをかぶるように指導を徹底する。
	○自ら健康的な体づくりをしようとする児童生徒の育成	○「体育の授業や外遊びなどで体を動かし、健康的な体づくりを心がけています」と回答する児童生徒を90%以上にする。	・外遊びや日常的な運動を奨励するとともに、部活動(中学部)の時間を充実させる。異年齢集団での交流活動の中に「健康づくり」「体力増進」を目的としたものを組み入れる。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・月ごとの超過勤務平均時間を毎月35時間以下にする。	・水曜日の定時退勤日を設定・徹底する。 ・原則として課業日1日と週休日1日の部活動休養日を徹底する。 ・会議時間の短縮と目的の明確化。週に1回、集中して業務に没頭する時間帯の設定。 ・困難な事案は複数で連携して取り組むことで個への負担軽減を図る。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○地域との連携	○地域連携活動を推進 ○ふるさとへの愛や誇りを持ち、ふるさとを自慢できる児童生徒の育成	○「北山ふれあい企画」の行事について肯定的な回答をした児童生徒を90%以上にする。 ○学校アンケートで「地域での行事などに進んで参加したり、交流学習で進んで交流したとする」児童生徒の割合を90%以上とする。	・「サマーキャンプ」「冬の北山まつり」の開催に当たっては児童生徒も運営の一員と位置づけ、活動させることで、より参加者全員が充実感を味わえる企画とする。
○小中一貫教育	○小中一貫教育を推進し、9年間を見通した教育課程の編成 ○小中連携した取り組みによる、特別支援教育の充実	○「小中一貫教育のよさを実感する」について肯定的な回答をする保護者、教職員の割合を90%以上にする。 ○学校評価アンケートで職員間で連携し、指導に当たることができたとする職員を90%以上にする。	・小中一貫教育のねらいやよさを再確認し、活動や行事毎に「めあて」「身に付いた力の振り返り」を取り入れることで、児童生徒にもそのよさを理解させる。 ・子ども支援会議、サポート部会、ケース会議の場で効果的に情報共有をし、児童生徒の指導に当たる。